

静岡県漁業協同組合連合会
1060 静岡市追手町 9-18
15.9.19 ☎ 054-254-6011
編集・発行 = 指導部漁政課

1. イルカ追い込み漁 出漁準備整う

伊東市漁協(根崎梓組合長)では、昨年イルカ追い込み漁を3年ぶりに再開したものの、まとまった群れを確認できず漁ができなく空振りに終わりましたが、昨年漁期前に決めたマニュアルを遵守し、9月からイルカ追い込み漁を開始します。

イルカの追い込み漁をしているのは、全国でも伊東市富戸地区、和歌山県太地町だけで、今年は探索船を出して群れの探索をしながら、発見とほぼ同時に追い込み船が出漁できる態勢が整いました。

漁期は来年の3月まで行われ、国が示した漁獲枠はバンドウイルカ75頭、アラリイルカ455頭、スジイルカ70頭の計600頭となっています。捕獲したイルカは、生きたまま水族館の注文に応じるほか、食肉としても出荷されます。

2. 平成14年の農林水産業生産指数 水産業は1.4%低下

農水省統計情報部では、平成14年の農林水産業生産指数を発表しました。この指数は平成12年を100として生産量の動向をみたものです。

平成14年の農林水産業全体の生産指数は97.0で前年に比べ1.0%低下しました。このうち、農業は97.5で前年に比べ0.8%低下、林業は91.6で前年に比べ3.4%低下、水産業は96.3で前年に比べ1.4%低下しました。水産業の指数低下は、海面養殖業以外の各部門で前年に比べて低下したことによりです。

各部門別にみると、海面漁業では92.3で、前年に比べ3.1%低下しました。これは、カタクチイワシ、ビンナガ、マス類等の漁獲量が増加したものの、キハダ、ブリ類、スルメイカ等の漁獲量が減少したためです。

海面養殖業では、107.1で、前年に比べ3.3%上昇しました。これは、フグ類、カキ類、コンブ類等の収穫量が減少したものの、クロノリ、ブリ類、ホタテガイ等の収穫量が増加したためです。

内水面漁業は95.3で前年に比べ2.8%低下しました。これは、シジミ、サケ類、その他サケ・マス類等の漁獲量が増加したものの、アユ、ウナギ、シラウオ等の漁獲量が減少したことによりです。

内水面養殖業では88.1で、前年に比べ7.7%低下しました。これは、ウナギ、アユ、マス類等の収穫量が減少したことによりです。

3. 平成14年度プレジャーボート放置艇実態調査結果まとまる

国土交通省港湾局、同河川局、水産庁が平成8年以来6年ぶりに「平成14年度プレジャーボート(PB)放置艇全国実態調査」を実施し、港湾、河川、漁港の3水域全体の結果をまとめました。

それによると、3水域全体の放置艇の隻数は、約13.4万隻(平成14年)であり、平成8年の約13.8万隻に比べ約0.4万隻減少しています。水域別に見ると、河川区域、漁港区域で

は、放置艇が減少しているものの、港湾区域では増加している結果となっています。

3水域で確認されたPB確認艇は約22.7万隻であり、平成8年と比較し約1.6万隻増加し港湾単独区域で約10.5万隻と最も多く全体の46%を占めました。

確認艇の艇種別状況では、小型モーターボートが最も多く全体の約74%を占め、前回調査に比べ約1.9万隻増加し大型モーターボート、クルーザーヨットの隻数は殆ど変わらず約3.8万隻、ディンギーヨットについては約0.3万隻減少の約0.9万隻となりました。

水域別係留・保管状況を見ると、マリーナ等の施設及び同施設以外に係留・保管されている艇は約7.3万隻で、前回調査と比較して約2.0万隻増加しました。また、PBの確認艇は、港湾、河川、漁港、全ての水域において増加し、前回調査時同様依然として確認艇に対する放置艇の占める割合が高い状況です。

4. 漁業研修生募集フェア 漁業研修生43名を認定

(社)大日本水産会では、去る8月2日「漁業研修生募集フェア」を開催し、8月22日の選考会で同フェアの研修希望者として登録した者と、漁協が独自に発掘した研修希望者の中から43名を漁業研修生として認定しました。研修生は9月から漁協など各漁業現場で3ヶ月から半年程度の実践的な研修を受けます。1回目のフェアで認定された72名が5月から研修に入っており、今回43名を加えると漁業研修生は115名となりました。

43名の内訳はフェアでの登録希望者29名、漁協発掘者13名、インターネットでの応募1名となっています。年齢層は20代、30代が中心ですが、40代も4名含まれています。研修する業種は、定置、養殖、旋網、イカ刺網、沖合底曳、小型底曳、近海カツオ、建て網、など多岐にわたっています。

5. 県、TAC(漁獲可能量) 8月末漁獲実績を発表

県では、この程TAC対象4魚種の8月末現在の漁獲可能量を発表しました。

それによると、サバがTAC数量9,000トンに対し7,674トンで消化率85.3%となり、TAC数量が若干量の魚種では、マアジ1,713トン、マイワシ2,952トン、スルメイカ332トンとなりました。また、サンマは30トンの漁獲量となりました。

6. 新刊図書紹介 「遊漁船業の適正化に関する法律関係法令集」

水産庁資源管理部沿岸沖合課監修の「遊漁船業の適正化に関する法律関係法令集」が成山堂書店より発刊されました。

悪質な遊漁船業者の締め出し、利用者の安全な漁場の安定利用を主目的とした改正遊漁船業法が今年4月に施行され、それに伴い、同書は最新の遊漁船業の適正化に関する法律と改正に至る経緯、関連文書、関係法令をとりまとめています。

定価：2,250円(税込) 問合せ先：成山堂書店 TEL：03-3357-5861

7. 諸会議・日程(9月23日(火)～10月6日(月))

- 既報分省略 -

10月2日(木) 県養鰻協会 = 役員・幹事・企画委員合同会議 (県水産会館)

10月3日(金) 県漁連 = 相良地区漁協合併研究協議会 (相良町役場)

10月4日(土)～6日(月) 県沿岸漁業振興協会 = 第23回全国豊かな海づくり大会

(島根県・浜田漁港)

10月5日(日) 県漁連 = 静岡口坂本の森クラブ作業 (井川・県民の森)